

光太郎と賢治

宮沢賢治全集ができるまで

2025

2026

12.13 土 ▶ 3.31 火

EVENT トークイベント

光太郎と賢治

— 宮沢賢治全集ができるまで —

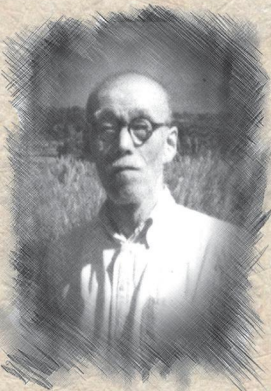
講師：小山弘明 / 宮沢和樹 / 瀬川正子

司会：田中しのぶ

日時：2026 年 2 月 21 日 (土) 10:00 - 11:30

会場：なはんプラザ コムズホール





高村光太郎

Kotaro Takamura

東京出身。彫刻家・詩人。
戦前から宮沢家と親交があり、「宮沢賢治全集」
編纂に初回から携わりました。
花巻の宮沢家に疎開した
のち、全集の刊行に関わ
り続けました。

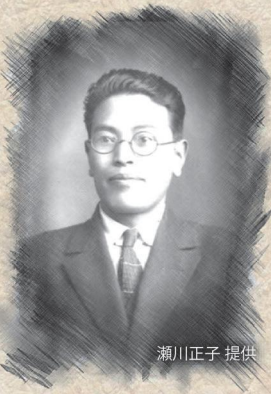


林風舎 提供

宮沢清六

Seiroku Miyazawa

兄、宮沢賢治の思いを受け、高村光太郎たち
の協力を得て、宮沢賢治全集を刊行。
賢治作品が世界中に広まる
足がかりとなりました。



瀬川正子 提供

藤原嘉藤治

Katoji Fujiwara

花巻高等女学校で音楽を担当。賢治が女学校
を訪問し交友がはじまりました。
光太郎、清六とともに
「宮沢賢治全集」を通じ、
賢治作品の普及に尽力し
ました。



光太郎と賢治

「宮沢賢治全集ができるまで」

高村光太郎は、当時、無名だった宮沢賢治の作品に出会い、宮沢賢治を広く後世に知らしめるための大きな役割を果たしましたが、37歳で早逝した宮沢賢治の今日に到る評価に高村光太郎が関与したことは、一般的には知られていません。

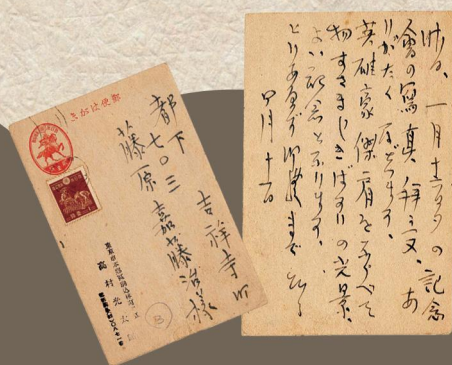
賢治没後の昭和9年(1934)、光太郎も出席した新宿モナミで開かれた賢治追悼の会では、実弟の清六がトランクに入った賢治の遺稿を披露しました。その中の手帳には「雨ニモマケズ」の詩もあり、光太郎をはじめとする著名人たちが感銘を受け、全集刊行へと動き出します。

当企画展では、光太郎が携わった4つの「宮沢賢治全集」に注目し、編集や装幀作業に係わるエピソードや宮沢賢治評について紹介します。また、賢治没後、清六と共に藤原嘉藤治が、文園堂版と十字屋版の全集を編纂者の一員として携わっていたことにも焦点をあてています。



十字屋版「宮沢賢治全集」七巻完成記念会
編集にあたったメンバー
昭和20年1月16日 西銀座 浜作

後列左より 岩田豊蔵 / 藤原嘉藤治 / 酒井嘉七
前列左より 谷川徹三 / 高村光太郎 / 横光利一 / 中島健蔵



光太郎より嘉藤治宛
左の全集完成記念の写真をもらった
お礼のハガキ 昭和20年4月11日

写真・ハガキ 瀬川正子 提供

トークイベント

光太郎と賢治

—宮沢賢治全集ができるまで—

2026年2月21日(土) 10:00～11:30

なはんプラザ コムズホール

講師

小山弘明 高村光太郎連翹忌運営委員会代表

高村光太郎研究者として毎年、高村光太郎の忌日・連翹忌を主催するなど顕彰活動に取り組んでいる。講演、出版、美術館企画展示、TV番組制作などへ協力。

瀬川正子 株式会社共同園芸取締役

藤原嘉藤治が開拓した紫波町の東根山麓に園芸施設「ビューガーデン」を開設。
第35回(2025年)イーハトーブ賞受賞。

宮沢和樹 株式会社林風舎代表取締役

宮沢賢治の実弟・清六の孫。
林風舎を経営する他、賢治作品やその精神を後世に正しく伝えるため、講演等で語り続けている。

司会：田中しのぶ

花巻賢治子供の会 OB